

広陵町 第3期 子ども・子育て支援事業計画
策定に係る

保護者調査報告書

令和6年3月

広陵町

【調査の実施概要】

- 調査対象 ①広陵町在住の就学前児童の保護者1,000名（児童の年齢構成にあわせて抽出）
②広陵町立小学校の2年生・3年生・5年生の全児童の保護者1,075名
- 実施方法 自治体専用電子申請システム「LoGoフォーム」を使用し、WEB上で実施
- 告知方法 回答フォームのQRコードを掲載した依頼文を以下の方法により配布
 - ①就学前児童の保護者：郵送により配布
 - ②小学生の保護者：小学校を通じて配布
- 実施期間 令和5年12月下旬～令和6年1月5日
- 回収数等 ①就学前児童の保護者：1,000通に対し408名（40.8%）が回答
②小学生の保護者：1,075通に対し588名（54.7%）が回答

【本報告書内の表記について】

- 回答の種類
 - ・[単数回答]：複数の選択肢から1つを選択してもらったもの
 - ・[複数回答]：複数の選択肢から該当する複数を選択してもらったもの
- グラフや分析文内の表記
 - ・グラフや分析文では、就学前児童の保護者の調査結果や回答について「就学前児童」や「就学前」、小学生の保護者の調査結果や回答について「小学生」や「小学●年生（●は学年の数字）」と「～の保護者」の部分を略して表記しています。
 - ・グラフの「N=」の数字は回答者の総数、「n=」の数字は設問への該当者数です。
 - ・割合は小数点以下第2位で四捨五入しているため、単数回答の結果であっても、合計が100.0%にならない場合があります。

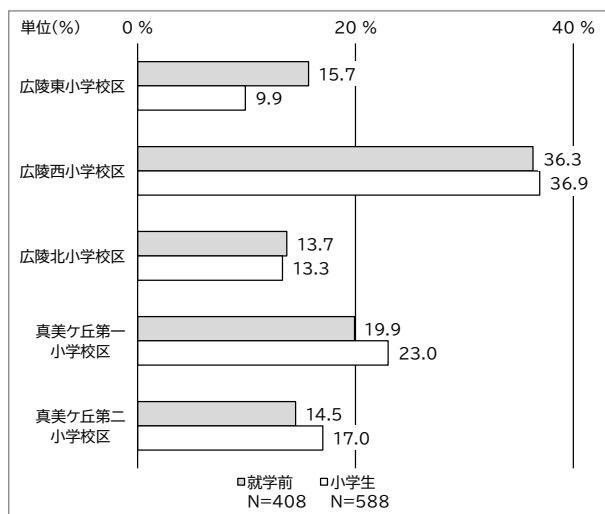
目次

1. 子どもと家族の状況	1
2. 保護者の就労状況	5
3. 平日の定期的な教育・保育事業等の利用について（就学前児童のみ）	11
4. 地域子育て支援事業について（就学前児童のみ）	13
5. 病気の際の対応（就学前児童のみ）	16
6. 一時預かり等の利用について	17
7. 就学後の放課後の過ごし方について	20
8. 保護者の育児休業について（就学前児童のみ）	25
9. 子育てへの不安や地域の子育て環境について	29

1. 子どもと家族の状況

1) 子どもの校区 [単数回答]

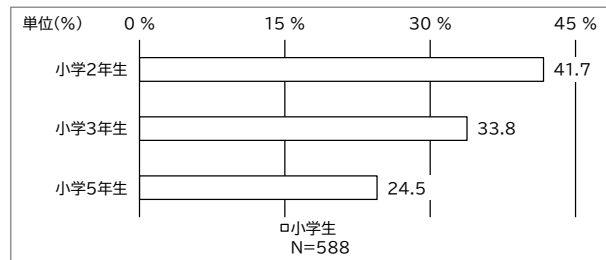
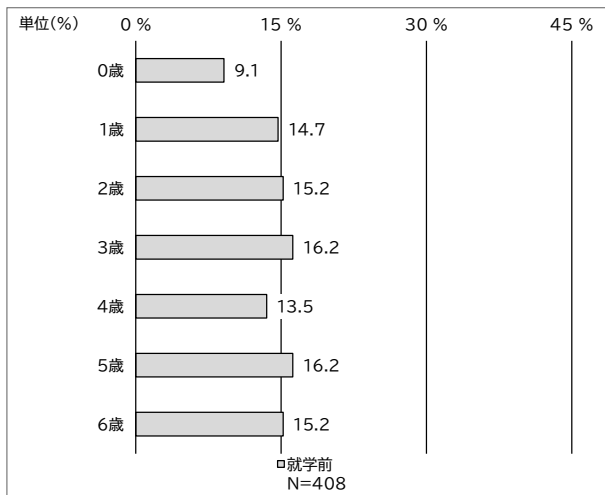
子どもの校区は、就学前児童・小学生ともに「広陵西小学校区」が最も高くなっています。



2) 子どもの年齢や学年 [就学前児童：数値入力／小学生：単数回答]

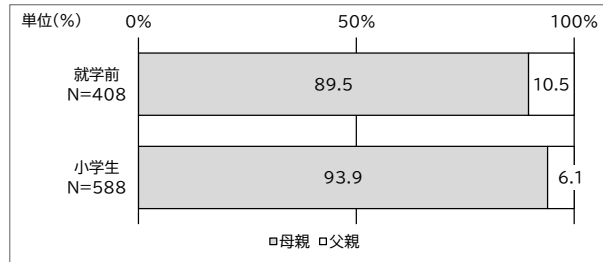
就学前児童の年齢（生年月の回答から令和6年1月時点の年齢を換算）は、0歳が9.1%となっているほかは、1歳から6歳まで13%台から16%台で概ね均衡しています。

一方、小学生の学年は小学2年生が41.7%で最も高くなっていますが、これは複数のお子さんをお持ちの回答者に対し、一番下のお子さんについて回答を依頼した影響であると思われます。



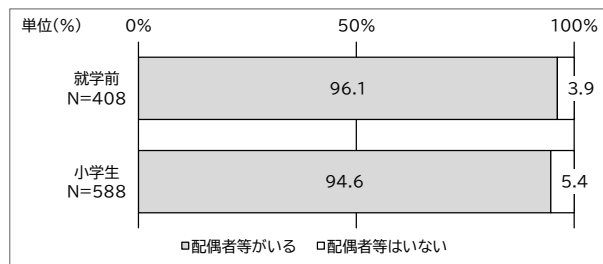
3) 回答者の続柄 [単数回答]

回答者の続柄は、「母親」が就学前児童で89.5%、小学生で93.9%となっており、小学生の方が4.4ポイント高くなっています。また、就学前児童・小学生とも、母親・父親以外の「その他」の回答はありませんでした。



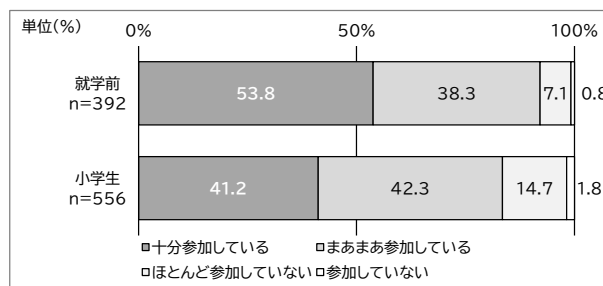
4) 回答者の配偶者等の有無 [単数回答]

回答者の配偶者（同居するパートナーを含む）の有無は、「配偶者等がいる」が就学前児童で96.1%、小学生で94.6%となっており、小学生の方が1.5ポイント低く（「配偶者等はいない」の割合が高く）なっています。



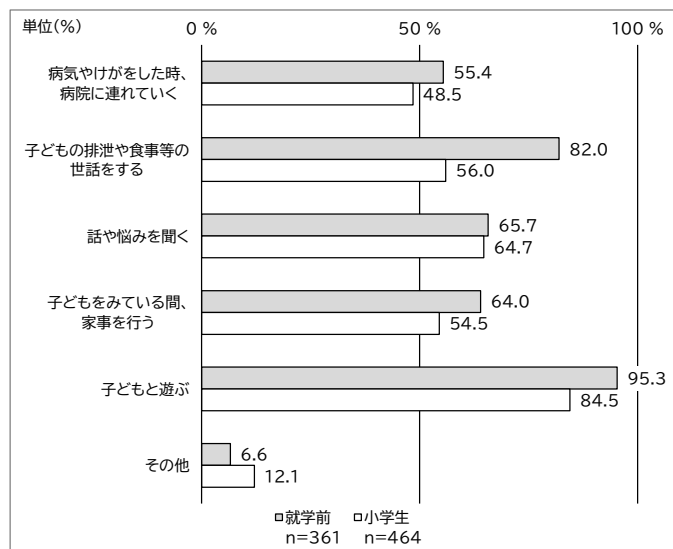
5) 配偶者等の育児参加の状況 [単数回答]

配偶者等の育児参加の状況は、「十分参加している」が就学前児童は53.8%と5割を超えているのに対し、小学生は41.2%と約4割にとどまっています。また、「十分参加している」と「まあまあ参加している」の合計は、就学前児童は92.1%、小学生は83.5%となっています。



6) 配偶者等の育児参加の内容【複数回答】

配偶者等の育児参加の内容は、就学前児童・小学生とも「子どもと遊ぶ」が最も高くなっています。次いで、就学前児童では「子どもの排泄や食事等の世話をする」の82.0%となっていますが、小学生では「話や悩みを聞く」の64.7%となっています。



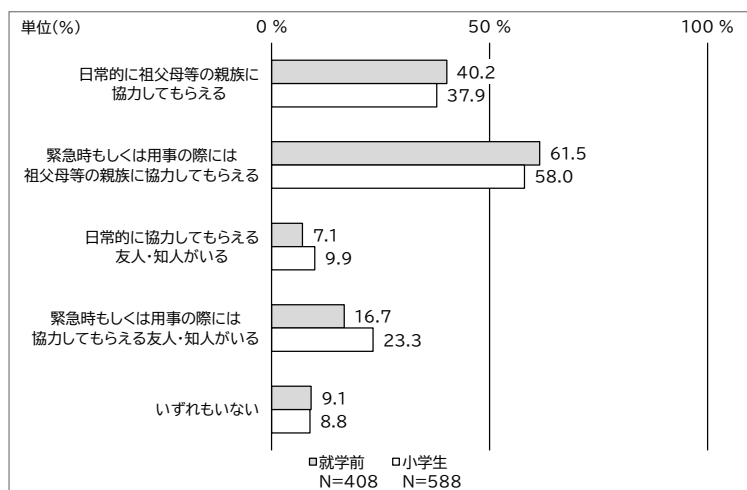
- その他の回答 -

【就学前児童】	【小学生】
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園や習い事の送迎や付き添い ・お風呂に入れる 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・習い事等の送迎や付き添い ・勉強や宿題をみる、教える 等

7) 育児に協力してもらえる親族・知人の有無【複数回答】

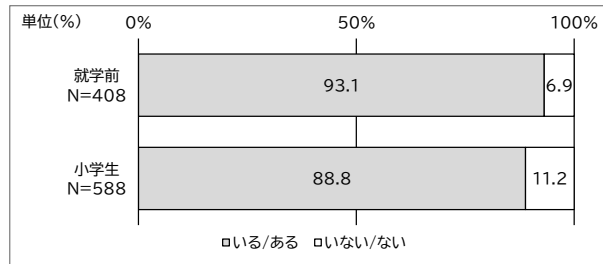
育児に協力してもらえる親族・知人の有無は、就学前児童・小学生とも「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に協力してもらえる」が最も高くなっています。また、祖父母等の親族に協力してもらえるとの回答の割合は就学前児童の方が高く、協力してもらえる友人・知人がいるとの回答の割合は小学生の方が高くなっています。

一方、「いずれもない」は、就学前児童で9.1%、小学生で8.8%となっています。



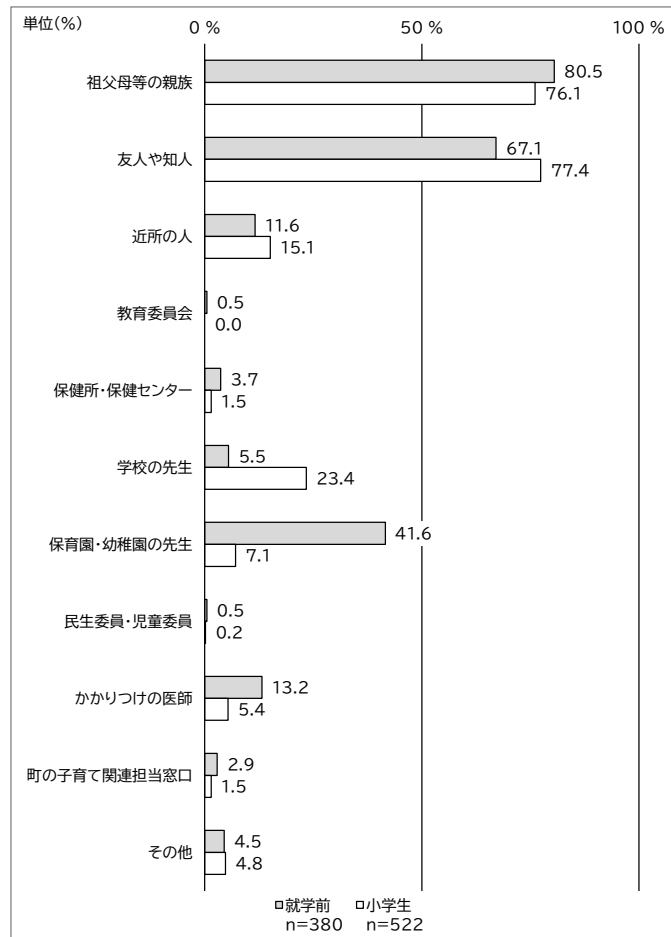
8) 気軽に相談できる人や場所の有無 [単数回答]

気軽に相談できる人や場所の有無は、「いる／ある」が就学前児童で93.1%、小学生で88.8%となっており、小学生では1割を超える11.2%が「いない／ない」と回答しています。



9) 気軽に相談できる人や場所 [複数回答]

気軽に相談できる人や場所は、就学前児童は「祖父母等の親族」が80.5%、小学生は「友人や知人」が77.4%で、それぞれ最も高くなっています。



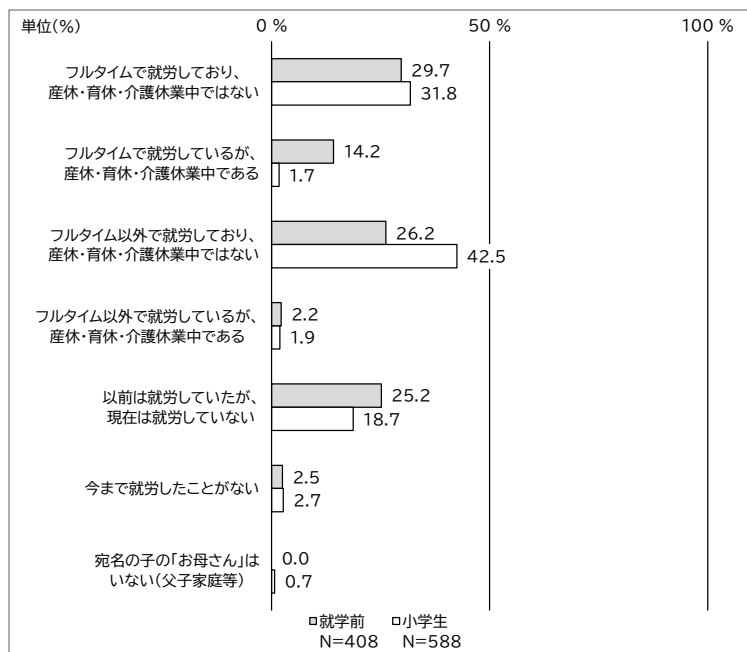
- その他の回答 -

【就学前児童】	【小学生】
<ul style="list-style-type: none"> 療育の先生、支援員 職場の人 なかよし広場 NPO法人 等 	<ul style="list-style-type: none"> 塾や習い事の先生 職場の人 療育や相談支援事業所の先生、支援員 等

2. 保護者の就労状況

1) 母親の就労状況 [単数回答]

母親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が就学前児童で29.7%、小学生で31.8%となっており、いずれも約3割の母親がフルタイムで就労中であることがわかります。また、小学生では「フルタイム以外で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が42.5%で、最も高くなっています。

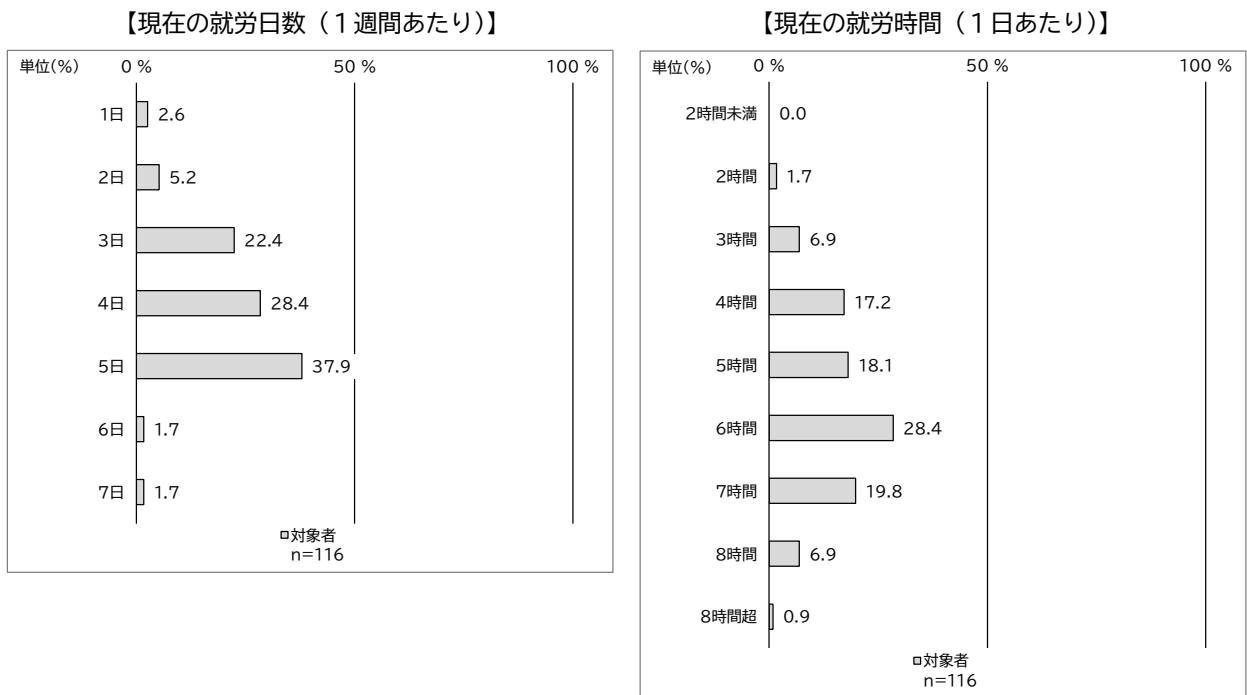


2) パート・アルバイト等で就労中の母親の状況（就学前児童のみ）

前問でパート・アルバイト等のフルタイム以外で就労しているとした母親の現在の就労日数（1週間あたり）は、「5日」が37.9%、就労時間（1日あたり）は「6時間」が28.4%で、それぞれ最も高くなっています。

また、今後の就労については、「パート・アルバイト等の就労を続けたい」が54.3%で最も高くなっている一方、30.2%は「フルタイムでの就労を希望しているが、実現は難しそうである」としています。

①現在の就労日数と就労時間【数値入力】



【週あたりの就労時間（日数×時間の換算）】

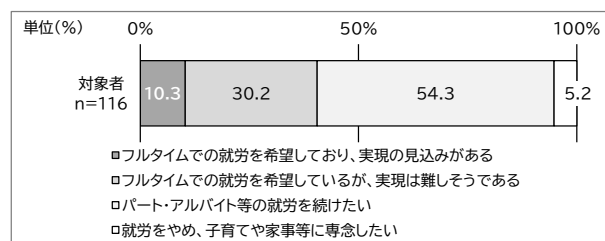
対象数 (n)	単位：時間（週あたり）				
	最大値	最小値	平均値	中央値	最頻値
116	48	4	23	24	30

※平均値は小数点以下第1位を四捨五入

【中央値】 数値を昇順や降順に並べた際に中央となる値で、平均値に比べ、極端に大きい値や極端に小さい値など、異常値（外れ値）の影響を受けにくい特徴があります。

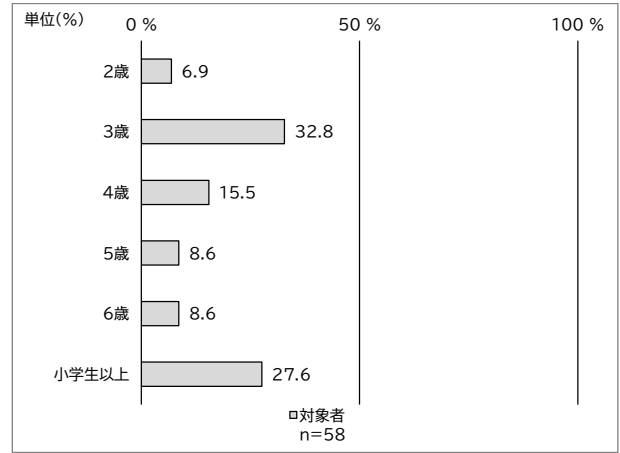
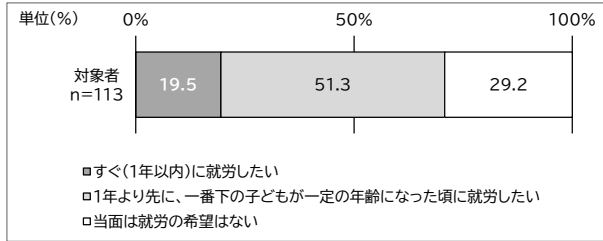
【最頻値】 対象の中で最も頻繁に現れる値で、統計の傾向をつかみやすい特徴があります。

②今後の就労意向【単数回答】



3) 非就労の母親の今後の就労意向（就学前児童のみ） [単数回答]および[数値入力]

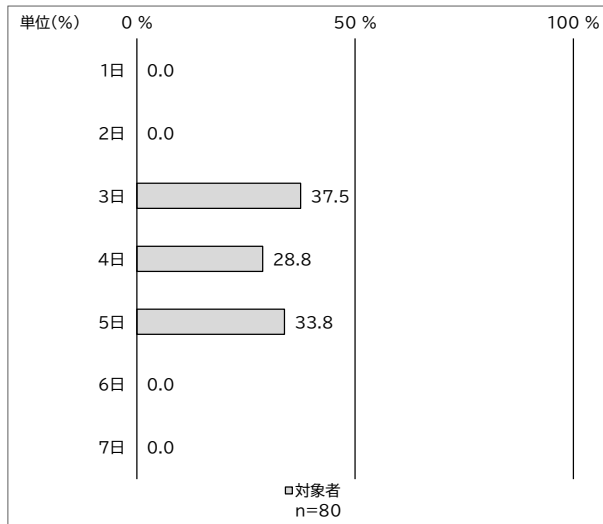
前々問で現在は就労していない／就労したことがないとした母親の今後の就労意向は、「すぐ（1年以内）に就労したい」が19.5%となっています。また、51.3%は「1年より先に、一番下の子どもが一定の年齢になった頃に就労したい」としており、この一番下の子どもの年齢については、「3歳」が32.8%で最も高くなっています。



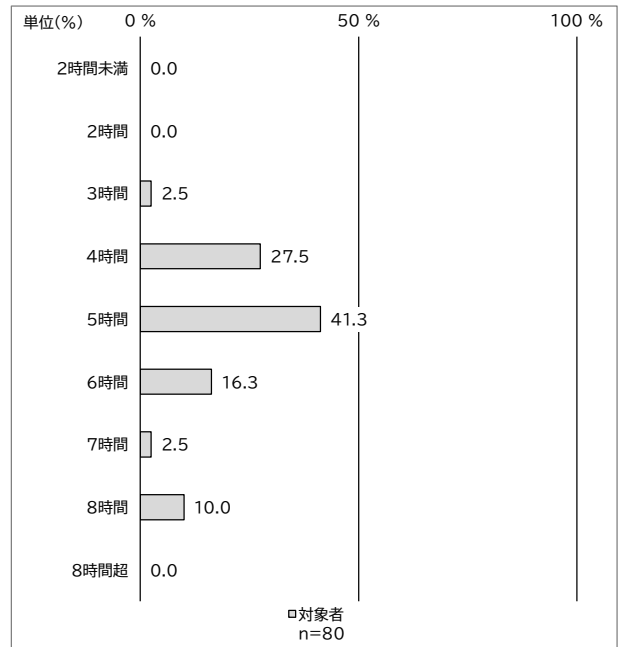
※上記、一番下の子どもの年齢への回答→

この設問で「就労したい」とした母親の希望する就労日数（1週間あたり）は、「3日」が37.5%、就労時間（1日あたり）は「5時間」が41.3%で、それぞれ最も高くなっています。

【希望する就労日数（1週間あたり）】



【希望する就労時間（1日あたり）】



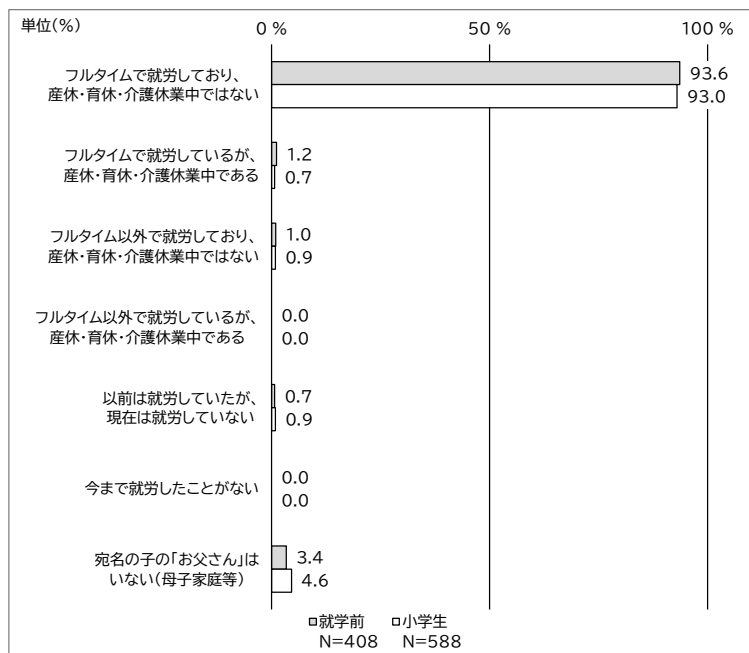
【週あたりの希望就労時間（日数×時間の換算）】

対象数 (n)	単位：時間（週あたり）				
	最大値	最小値	平均値	中央値	最頻値
80	40	9	21	20	20

※平均値は小数点以下第1位を四捨五入

4) 父親の就労状況 [単数回答]

父親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が就学前児童で93.6%、小学生で93.0%となっています。

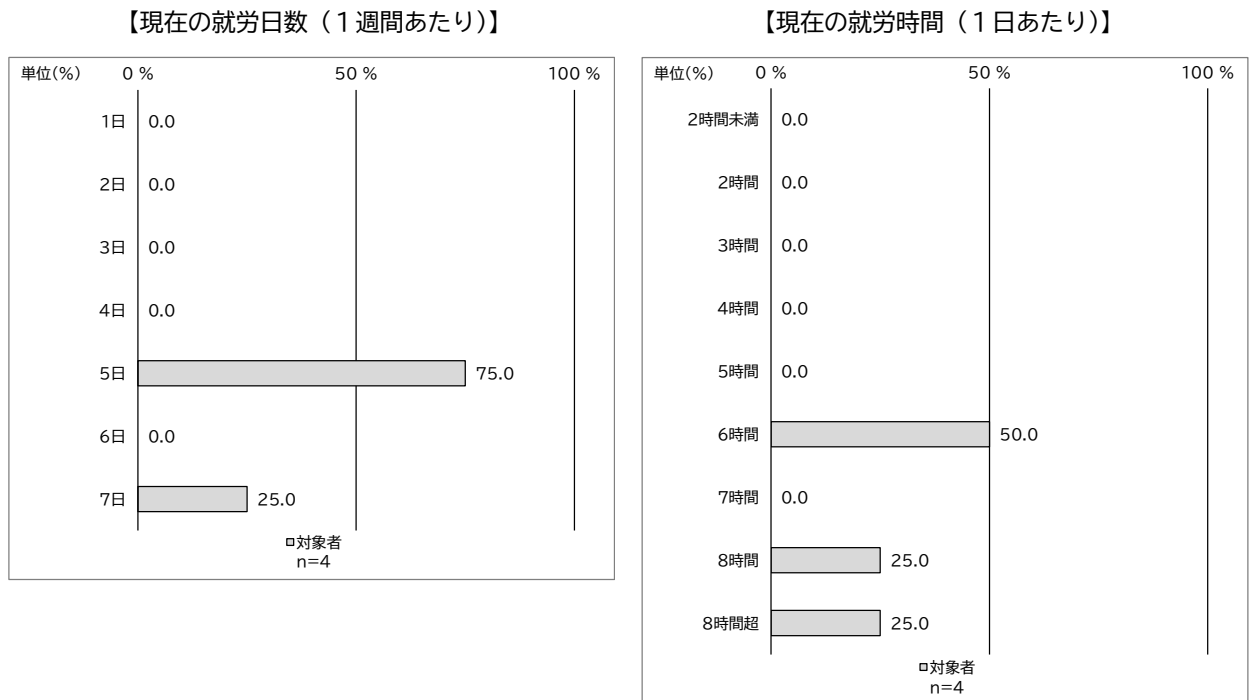


5) パート・アルバイト等で就労中の父親の状況（就学前児童のみ）

前問でパート・アルバイト等のフルタイム以外で就労しているとした父親（4件）の現在の就労日数（1週間あたり）は、「5日」が75.0%（3件）、就労時間（1日あたり）は「6時間」が50.0%（2件）で、それぞれ最も高くなっています。

また、今後の就労については、「フルタイムでの就労を希望しており、実現の見込みがある」と「パート・アルバイト等の就労を続けたい」がそれぞれ50.0%（2件）となっています。

①現在の就労日数と就労時間【数値入力】



【週あたりの就労時間（日数×時間の換算）】

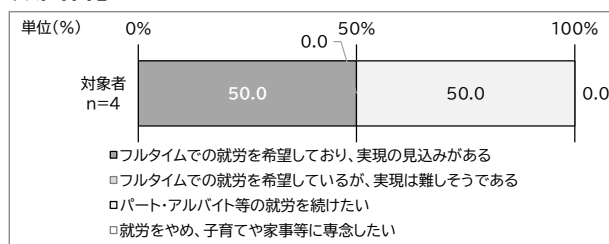
対象数 (n)	単位：時間（週あたり）				
	最大値	最小値	平均値	中央値	最頻値
4	105	30	51	35	30

※平均値は小数点以下第1位を四捨五入

【中央値】 数値を昇順や降順に並べた際に中央となる値で、平均値に比べ、極端に大きい値や極端に小さい値など、異常値（外れ値）の影響を受けにくい特徴があります。

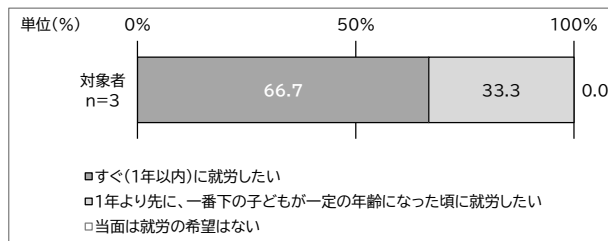
【最頻値】 対象の中で最も頻繁に現れる値で、統計の傾向をつかみやすい特徴があります。

②今後の就労意向【単数回答】



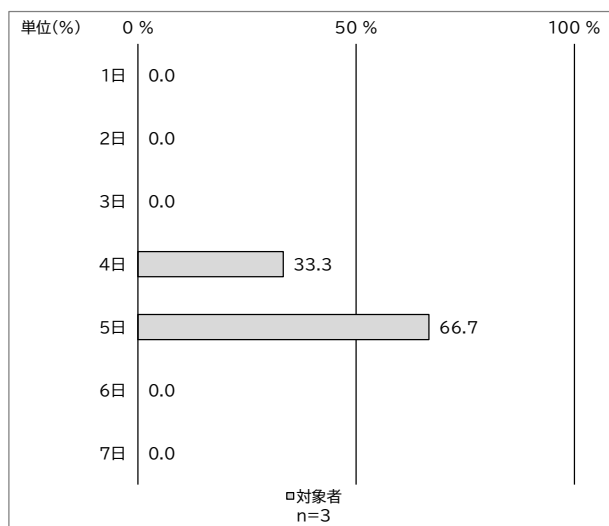
6) 非就労の父親の今後の就労意向 (就学前児童のみ) [単数回答]および[数値入力]

前々問で現在は就労していない／就労したことがないとした父親 (3件) の今後の就労意向は、「すぐ (1年以内) に就労したい」が66.7% (2件)、「1年より先に、一番下の子どもが一定の年齢になった頃に就労したい」が33.3% (1件) となっており、この一番下の子どもの年齢については「3歳」と回答しています。

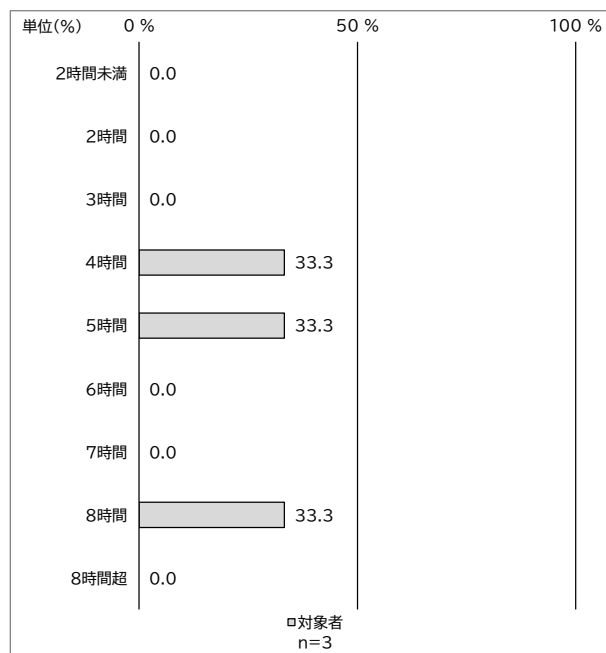


この設問で「就労したい」とした父親の希望する就労日数 (1週間あたり) は、「5日」が66.7% (2件)、4日が33.3% (1件)、就労時間 (1日あたり) は、「4時間」「5時間」「8時間」がそれぞれ33.3% (各1件) となっています。

【希望する就労日数 (1週間あたり)】



【希望する就労時間 (1日あたり)】



【週あたりの希望就労時間 (日数×時間の換算)】

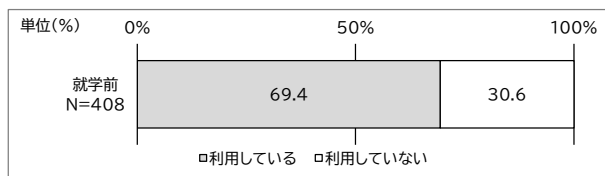
対象数 (n)	単位：時間 (週あたり)				
	最大値	最小値	平均値	中央値	最頻値
3	40	20	27	20	20

※平均値は小数点以下第1位を四捨五入

3. 平日の定期的な教育・保育事業等の利用について（就学前児童のみ）

1) 平日の定期的な教育・保育事業等の利用の有無 【単数回答】

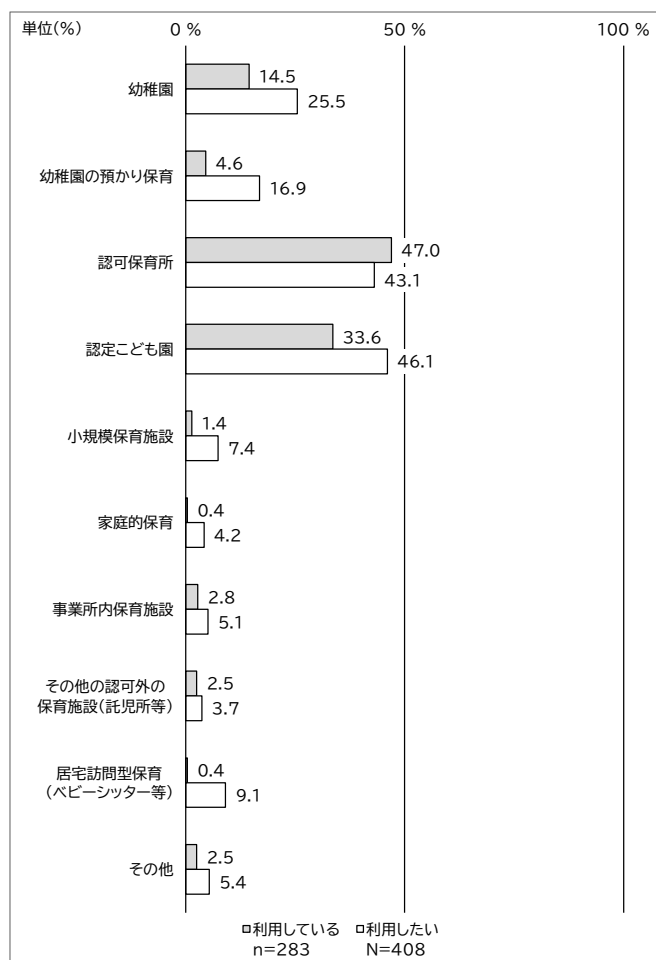
幼稚園や認定こども園・保育園等の平日の定期的な施設や事業の利用については、69.4%が「利用している」と回答しています。



2) 利用している施設や事業と利用したい施設や事業 【複数回答】

前問で平日の定期的な施設や事業を「利用している」とした回答者が利用している施設や事業は、「認可保育所」が47.0%で最も高く、次いで「認定こども園」となっています。

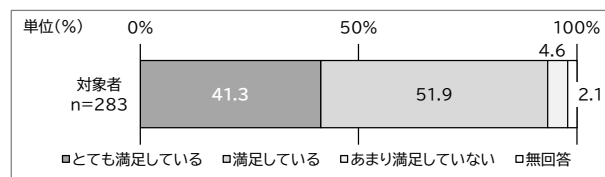
一方、現在の利用の有無にかかわらず利用したい施設や事業は、「認定こども園」が46.1%で最も高く、次いで「認可保育所」となっています。



- その他の回答 -	
【利用している施設や事業】 ・療育／発達支援施設 等	【利用したい施設や事業】 ・病児病後児保育施設 ・発達支援事業所 ・児童館のように誰でも遊びに行ける施設 等

3) 利用している施設や事業の満足度 【単数回答】

前々問で平日の定期的な施設や事業を「利用している」とした回答者の利用している施設や事業への満足度は、「とても満足している」が41.3%で、「とても満足している」と「満足している」の合計は93.2%となっています。

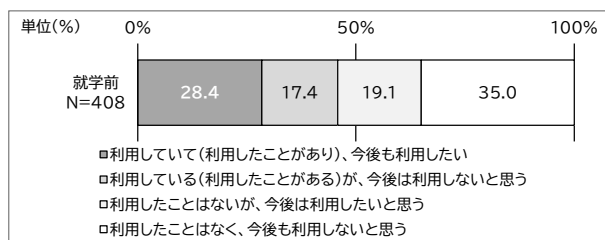


- その他の回答 -	
・給食がない ・土曜日の保育の終了時間が早い ・親が参加できる行事が少ない 等	

4. 地域子育て支援事業について（就学前児童のみ）

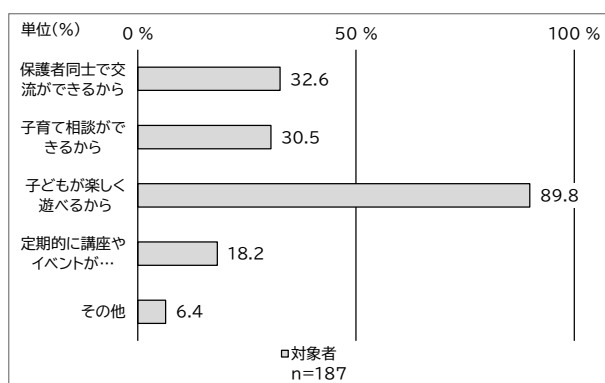
1) 地域子育て支援事業の利用状況 【単数回答】

地域子育て支援事業（本町の「なかよし広場」「畿央大学附属広陵こども園つどいのひろば」「マミつどいの広場」）の利用状況は、「利用している（利用したことがある）、今後も利用したい」が28.4%、「利用したことはないが、今後は利用したいと思う」が19.1%などとなっています。



①地域子育て支援事業を利用している理由 【複数回答】

この設問で利用しているとした回答者の利用している理由は、「子どもが楽しく遊べるから」が89.8%で特に高くなっています。

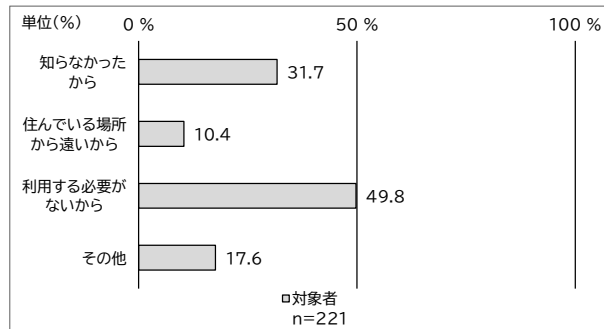


- その他の回答 -

- ・ 知人に誘われたため
- ・ 子どもが家族以外の人に慣れるため 等

②地域子育て支援事業を利用していない理由【複数回答】

この設問で利用していないとした回答者の利用していない理由は、「利用する必要があるから」が49.8%で最も高くなっています。また、「知らなかったから」も31.7%となっています。

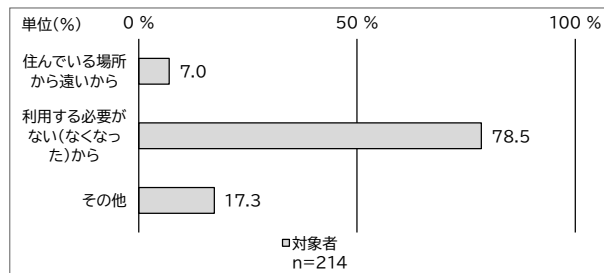


- その他の回答 -

- ・時間がない（予定があわない、余裕がない）
- ・予約が面倒、手間がかかる
- ・感染への心配
- ・内容がよくわからない
- ・集まりが苦手 等

③今後、地域子育て支援事業を利用しないと思う理由【複数回答】

この設問で今後は利用しないと思うとした回答者の利用しない理由は、「利用する必要がある(なくなった)から」が78.5%と特に高くなっています。



- その他の回答 -

- ・時間がない（予定があわない、余裕がない）
- ・行ってみたいとは思いますが、行くことが手間に感じる
- ・感染への心配
- ・内容がよくわからない
- ・集まりが苦手
- ・まわりの保護者や子どもとの関わりが面倒 等

2) 各事業の認知度・利用経験・今後の利用意向 [それぞれ複数回答]

本町で実施している様々な子育て支援事業について、認知度・利用経験・今後の利用意向を尋ねました。

①認知度

事業の認知度は、「広陵町立図書館での子育て支援活動（おはなし会、赤ちゃんから絵本を楽しもう！等）」が67.9%で最も高く、次いで「さわやかホールでの子育て支援活動（電話相談、発達相談、パパママクラス等）」となっています。

一方、12.0%は「いずれも知らない（聞いたことがない）」と回答しています。

②利用経験

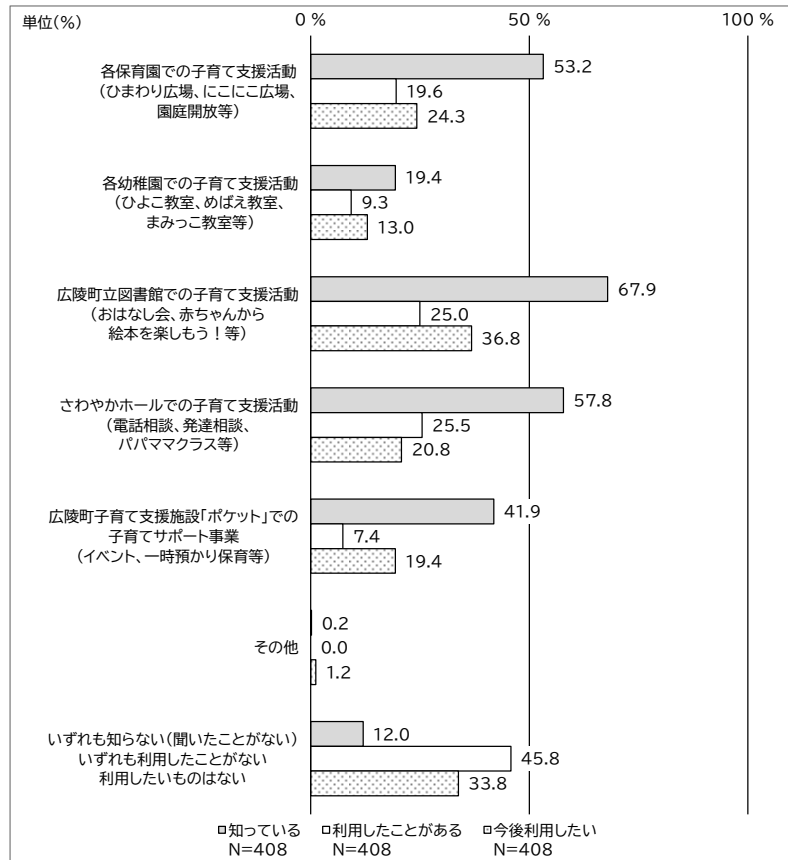
事業の利用経験は、「さわやかホールでの子育て支援活動（電話相談、発達相談、パパママクラス等）」が25.5%、「広陵町立図書館での子育て支援活動（おはなし会、赤ちゃんから絵本を楽しもう！等）」が25.0%などとなっています。

一方、45.8%は「いずれも利用したことがない」と回答しています。

③今後の利用意向

事業の今後の利用意向は、「広陵町立図書館での子育て支援活動（おはなし会、赤ちゃんから絵本を楽しもう！等）」が36.8%と最も高くなっています。

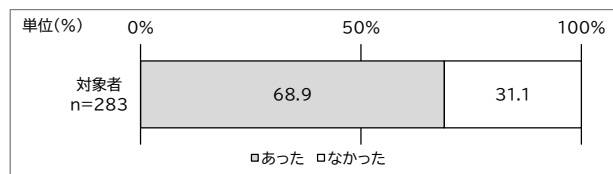
一方、33.8%は「利用したいものはない」と回答しています。



5. 病気の際の対応（就学前児童のみ）

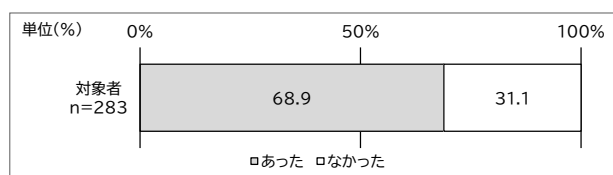
1) 病気やケガで教育・保育事業が利用できなかったこと 【単数回答】

直近1年間に、病気やケガで普段利用している教育・保育事業が利用できなかった経験は、「あった」が68.9%となっています。



2) 病児・病後児保育の利用 【単数回答】

前問で「あった」とした回答者のうち、「病児・病後児の保育施設を利用した」は6.7%、「病児・病後児の保育施設は利用しなかったが、今後は利用したいと思った（思う）」は43.6%、「病児・病後児の保育施設を利用することはないと思う」は49.7%となっています。

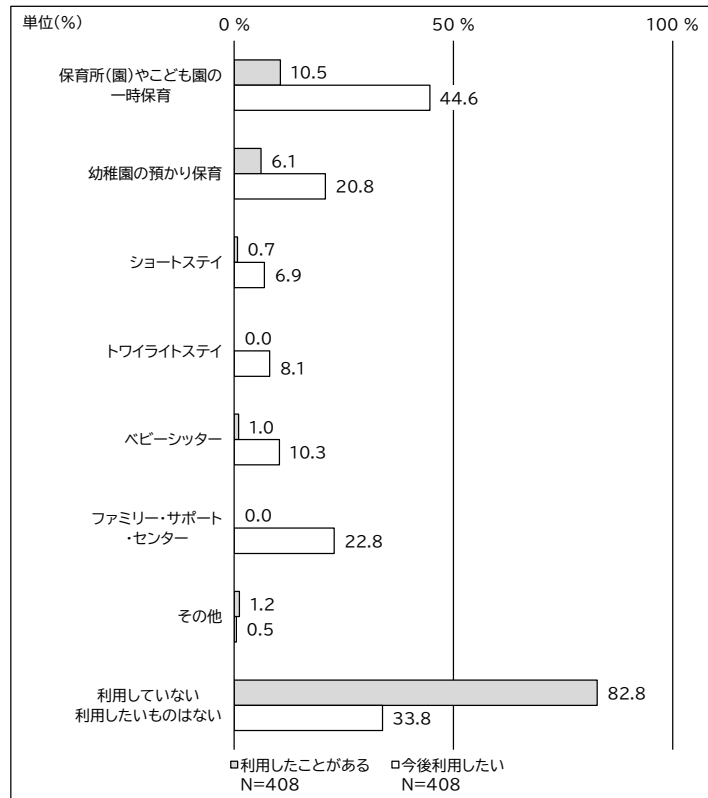


6. 一時預かり等の利用について

1) 利用したことのある事業と今後利用したい事業（就学前児童のみ）【それぞれ複数回答】

家族の用事や通院、冠婚葬祭、不定期の就労等で利用したことのある事業やサービスは、「保育所（園）やこども園の一時保育」が10.5%、「幼稚園の預かり保育」が6.1%などとなっていますが、82.8%は「利用していない」としています。

一方、これまでの利用の有無にかかわらず今後利用したい事業やサービスは、「保育所（園）やこども園の一時保育」が44.6%、「ファミリー・サポート・センター」が22.8%などとなっています。



- その他の回答 -

【利用したことがある】	【今後利用したい】
<ul style="list-style-type: none"> ・「ポケット」 ・子育てシェア 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てシェア 等

2) 事業を利用すると思う日数（就学前児童のみ）

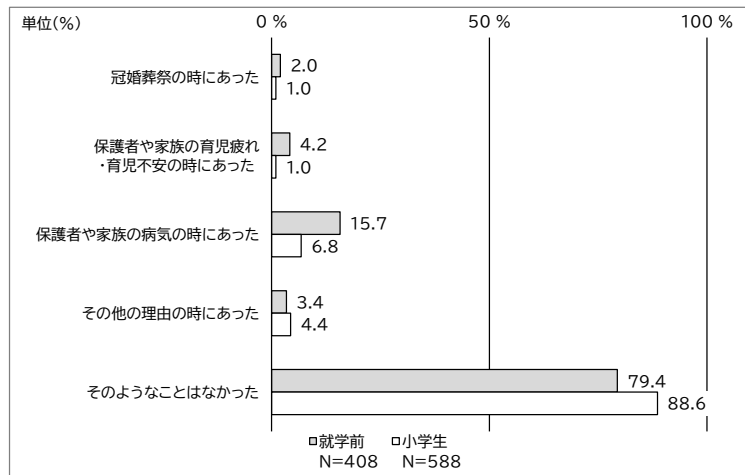
これまでの利用の有無にかかわらず、前問の選択肢のような一時預かりの事業やサービスを利用したいと思う年間の日数（平均値）は、「私用（買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が10日／年、「私用（買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」と「不特定の就労」が7日／年などとなっています。

理由	対象数 (n)	単位：日／年
		平均値
私用（買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的	273	10
冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の 通院等	273	7
不特定の就労	273	7
その他	273	5
合計	273	29

※平均値は小数点以下第1位を四捨五入

3) 宿泊を伴う預かり事業の利用機会【複数回答】

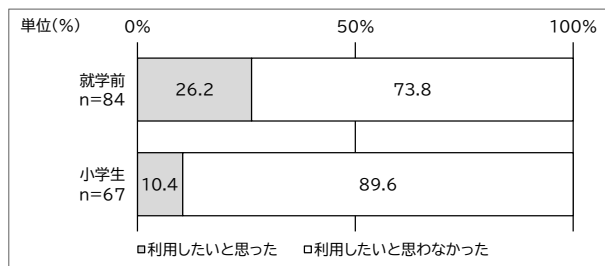
宿泊を伴う預かり事業の利用機会の有無（過去1年間に、保護者の用事で家族以外に泊りがけで子どもをみてもらわなければならなかった機会の有無。預け先が見つからなかった場合も含む）は、「保護者や家族の病気の時にあった」が就学前児童で15.7%、小学生で6.8%などとなっています。



- その他の回答 -	
【就学前児童】	【小学生】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 出産や妊娠期間中 ・ 仕事のため 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事のため ・ 私用やリフレッシュのため 等

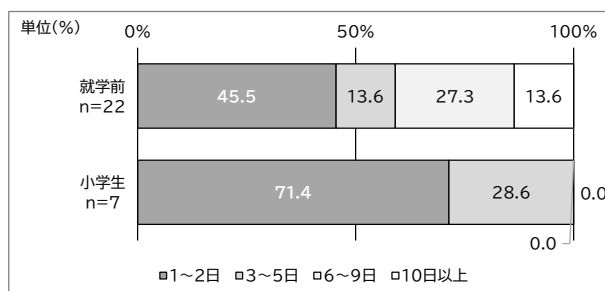
4) ショートステイの利用意向 [単数回答]

前問で「あった」とした回答者のうち、そのような際にショートステイを「利用したいと思った」としたのは、就学前児童で26.2%、小学生で10.4%となっています。



5) ショートステイの利用意向日数 [単数回答]

前問で「利用したいと思った」とした回答者の利用意向日数（年間）は、「1～2日」が就学前児童で45.5%、小学生で71.4%となっています。また、小学生より就学前児童の利用意向日数が多く、就学前児童では「10日」との回答が2件、「12日」との回答が1件ありました。

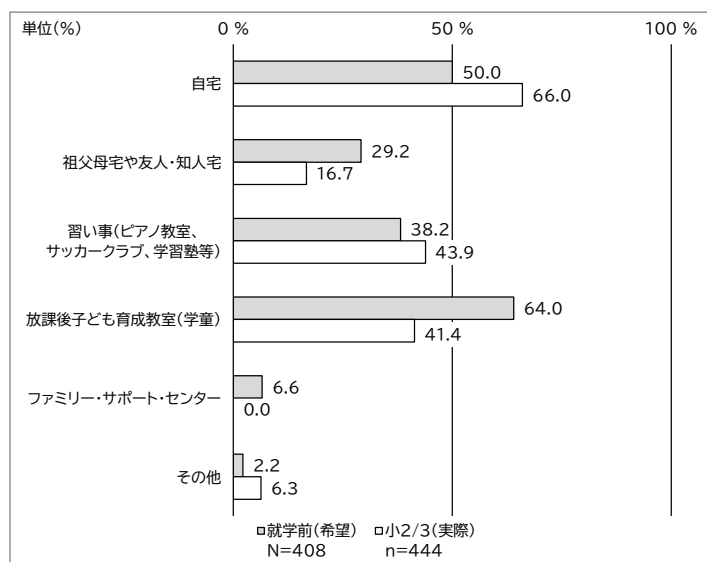


7. 就学後の放課後の過ごし方について

1) 低学年時の放課後の居場所 [複数回答]

低学年時の居場所について、就学前児童の「希望」と、小学2年生・3年生の「実際」をグラフ化しています。

就学前児童の「希望」は「放課後子ども育成教室(学童)」が64.0%で最も高くなっているのに対し、小学2年生・3年生の「実際」は「自宅」が66.0%で最も高くなっており、この2つについて、就学前児童の「希望」と小学2年生・3年生の「実際」の状況に逆転が見られます。



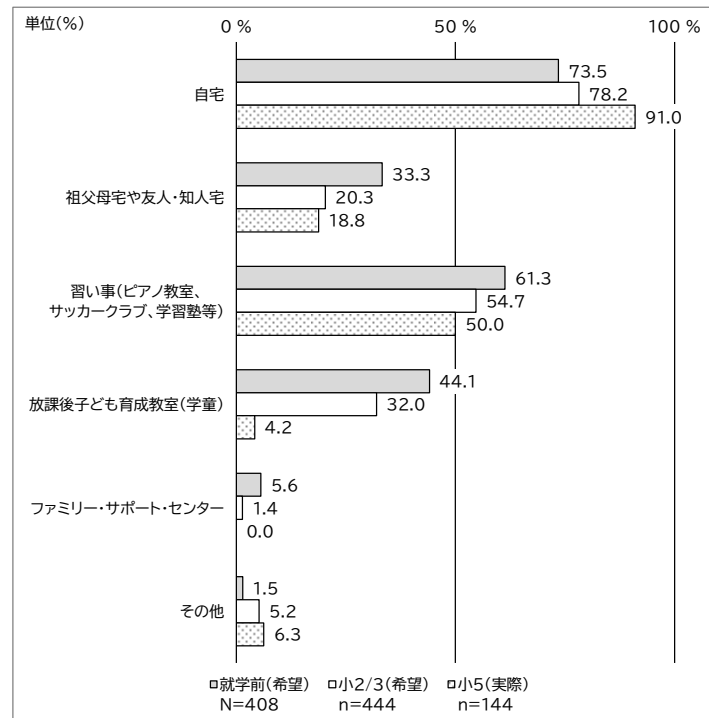
- その他の回答 -

【就学前児童(希望)】	【小学2年生・3年生(実際)】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後デイサービス ・ 公園 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園(で友だちと遊ぶ) ・ 放課後等デイサービス 等

2) 高学年時の放課後の居場所 【複数回答】

高学年時の居場所について、就学前児童と小学2年生・3年生の「希望」と、小学5年生の「実際」をグラフ化しています。

就学前児童と小学2年生・3年生の「希望」と小学5年生の「実際」のいずれも「自宅」が最も高くなっていますが、その割合は小学5年生の「実際」が91.0%で、特に高くなっています。また、就学前児童の「希望」は「放課後子ども育成教室（学童）」が61.3%で「自宅」に次いで高くなっていますが、小学5年生の「実際」は4.2%で、就学前児童や小学2年生・3年生の「希望」に対し、特に低くなっています。

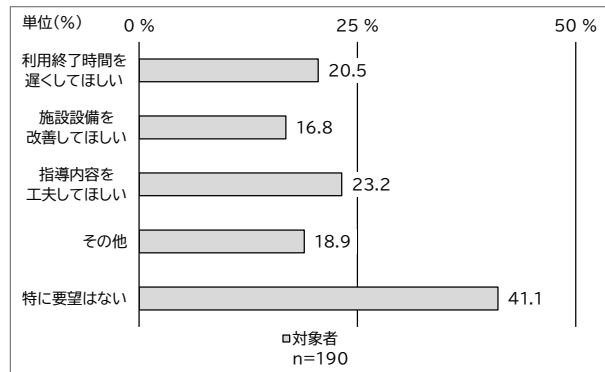


- その他の回答 -

【就学前児童（希望）】	【小学2年生・3年生（希望）】	【小学5年生（実際）】
・公園 ・放課後等デイサービス 等	・公園 ・放課後等デイサービス 等	・公園（で友だちと遊ぶ） 等

3) 放課後子ども育成教室への要望（小学生の育成教室利用者のみ）【複数回答】

小学生の放課後子ども育成教室（学童）利用者の育成教室への要望は、「特にはない」が41.1%で最も高くなっています。一方、要望では「指導内容を工夫してほしい」が最も高く、次いで「利用終了時間を遅くしてほしい」となっているほか、「その他」の回答が多く寄せられています。

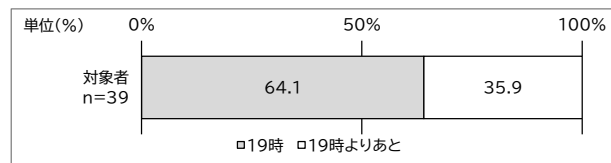


- その他の回答 -

- ・ 開始時間・開所時期について
- ・ 利用料金等の軽減
- ・ 昼食を提供してほしい
- ・ 先生の待遇改善
- ・ 習い事の送迎をしてほしい 等

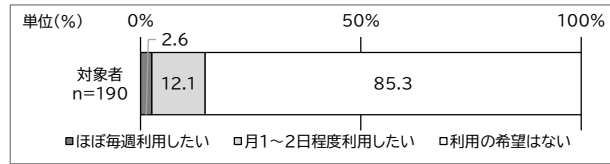
4) 希望する終了時間（育成教室の終了時間延長希望者のみ）【単数回答】

前問で「利用終了時間を遅くしてほしい」とした回答者の希望する終了時間は、「19時」が64.1%、「19時よりあと」が35.9%となっています。



5) 育成教室の日曜・祝日の利用意向（小学生の育成教室利用者のみ） [単数回答]

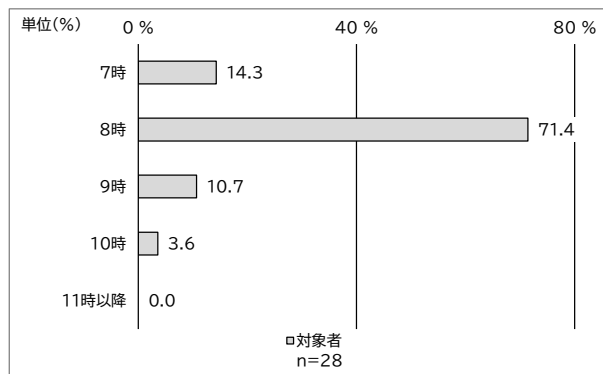
小学生の放課後子ども育成教室（学童）利用者の日曜・祝日の利用意向は、「利用の希望はない」が85.3%となっており、「ほぼ毎週利用したい」は2.6%、「月1～2回利用したい」は12.1%となっています。



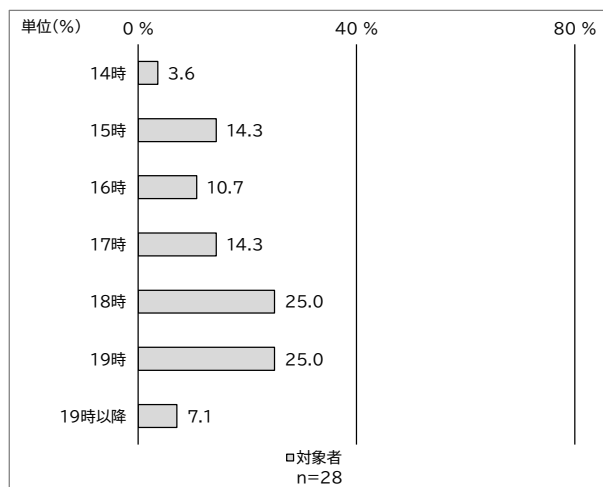
「ほぼ毎週利用したい」「月1～2回利用したい」とした回答者の希望する開始時間は、「8時」が71.4%で特に高く、次いで「7時」となっています。

一方、希望する終了時間は、「18時」と「19時」が25.0%となっているほか、「19時以降」との回答が7.1%などとなっています。

①希望する開始時間（日曜・祝日の利用希望者のみ） [数値入力]

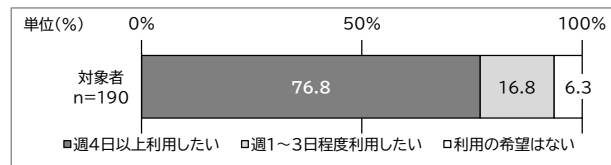


②希望する終了時間（日曜・祝日の利用希望者のみ） [数値入力]



6) 育成教室の長期休暇中の利用意向（小学生の育成教室利用者のみ） [単数回答]

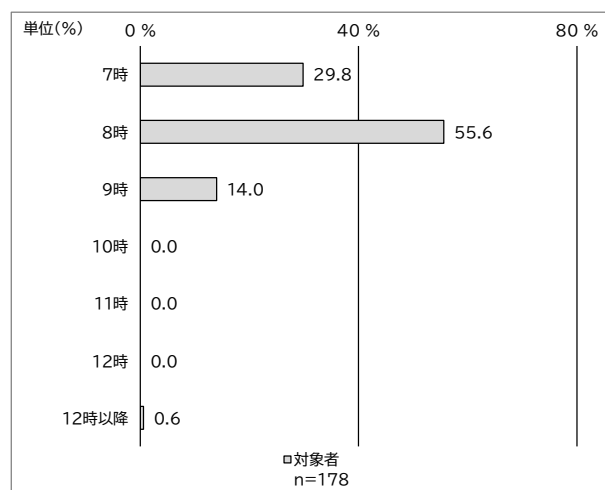
小学生の放課後子ども育成教室（学童）利用者の夏休みなどの長期休暇中の利用意向は、「週4日以上利用したい」が76.8%、「週1～3日利用したい」が16.8%となっています。



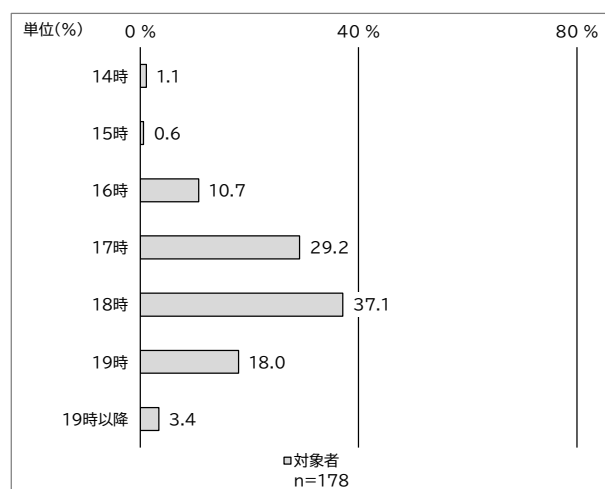
「週4日以上利用したい」「週1～3日利用したい」とした回答者の希望する開始時間は、「8時」が55.6%で最も高く、次いで「7時」となっています。

一方、希望する終了時間は、「18時」が37.1%、「17時」が29.2%などとなっています。

①希望する開始時間（長期休暇中の利用希望者のみ） [数値入力]



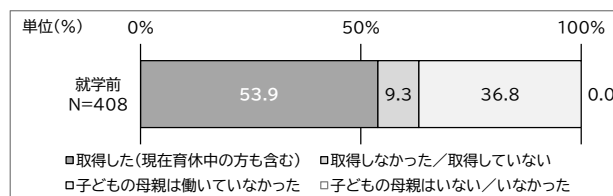
②希望する終了時間（長期休暇中の利用希望者のみ） [数値入力]



8. 保護者の育児休業について（就学前児童のみ）

1) 母親の育児休業の取得状況 [単数回答]

母親の育児休業の取得状況は、「取得した（現在育児休業中の方も含む）」が53.9%、「取得しなかった／取得していない」が9.3%となっています。



2) 母親の育児休業取得期間の実際と希望

母親が取得した育児休業の最多月数は、子どもが47か月（3歳11か月）の時まで、最少月数は1か月の時まで、平均月数は16か月（1歳4か月）の時までとなっています。

また、「実際の取得期間より長く取得したかった」とする母親が希望する育児休業の最多月数は、上記の最多月数と同じ子どもが47か月（3歳11か月）の時まで、最少月数は2か月の時まで、平均月数は29か月（2歳5か月）の時までとなっています。

なお、母親の育児休業の取得期間は就労環境等に大きく左右されることから、表の最頻値より、実際の取得期間は12か月（1歳）の時まで、希望する期間は36か月（3歳）の時までを標準的な回答とみることが適当であると言えます。

対象数 (n)	【実際】 単位：か月				
	最大値	最小値	平均値	中央値	最頻値
220	47	1	16	12	12

※平均値は小数点以下第1位を四捨五入

対象数 (n)	【希望】 単位：か月				
	最大値	最小値	平均値	中央値	最頻値
130	47	2	29	30	36

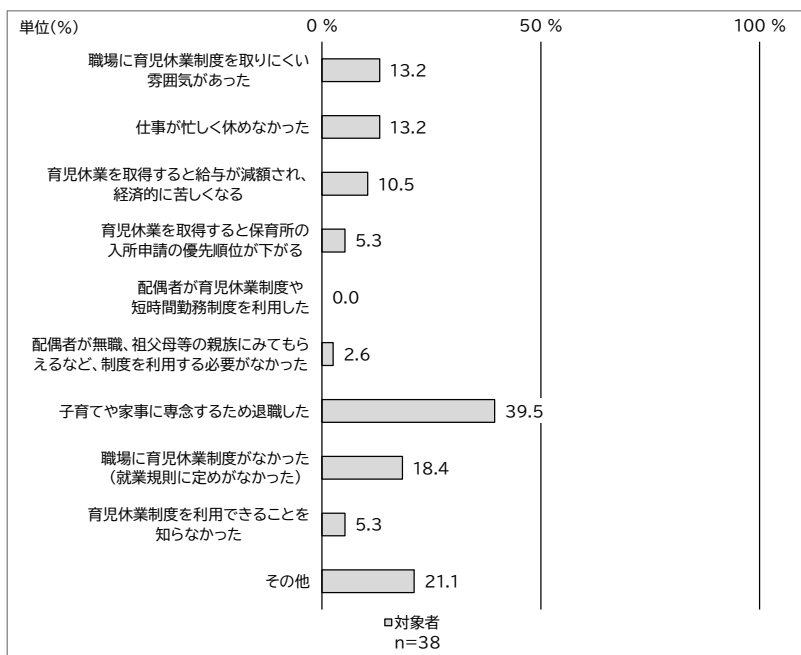
※平均値は小数点以下第1位を四捨五入

【中央値】 数値を昇順や降順に並べた際に中央となる値で、平均値に比べ、極端に大きい値や極端に小さい値など、異常値（外れ値）の影響を受けにくい特徴があります。

【最頻値】 対象の中で最も頻繁に現れる値で、統計の傾向をつかみやすい特徴があります。

3) 母親が育児休業を取得していない理由 [複数回答]

母親が育児休業を取得していない理由は、「子育てや家事に専念するため退職した」が39.5%で最も高く、次いで「職場に育児休業制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が18.4%などとなっています。

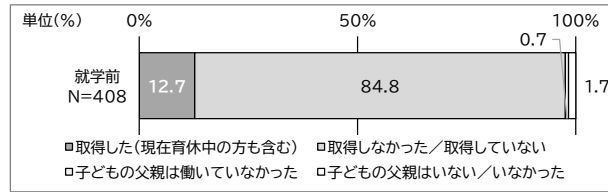


- その他の回答 -

- ・ 自営業のため
- ・ パートや契約社員のため 等

4) 父親の育児休業の取得状況 [単数回答]

父親の育児休業の取得状況は、「取得した（現在育児休業中の方も含む）」が12.7%、「取得しなかった／取得していない」が84.8%となっています。



5) 父親の育児休業取得期間の実際と希望

父親が取得した育児休業の最多月数は、子どもが13か月（1歳1か月）の時まで、最多月数は0、平均月数は2か月の時までとなっています。（最多月数の0は、1か月に満たない期間の育児休業と推測されます）

また、「実際の取得期間より長く取得したかった」とする父親が希望する育児休業の最多月数は、母親が希望する最多月数と同じ子どもが47か月（3歳11か月）の時まで、最多月数は2か月の時まで、平均月数は13か月（1歳1か月）の時までとなっています。

なお、父親の育児休業の取得期間は母親ほど振れ幅はないものの、母親同様、表の最頻値より、実際の取得期間は1か月の時まで、希望する期間は12か月（1歳）の時までを標準的な回答とみるのが適当であると言えます。

対象数 (n)	【実際】 単位：か月				
	最大値	最小値	平均値	中央値	最頻値
52	13	0	2	1	1

※平均値は小数点以下第1位を四捨五入

対象数 (n)	【希望】 単位：か月				
	最大値	最小値	平均値	中央値	最頻値
33	47	2	13	12	12

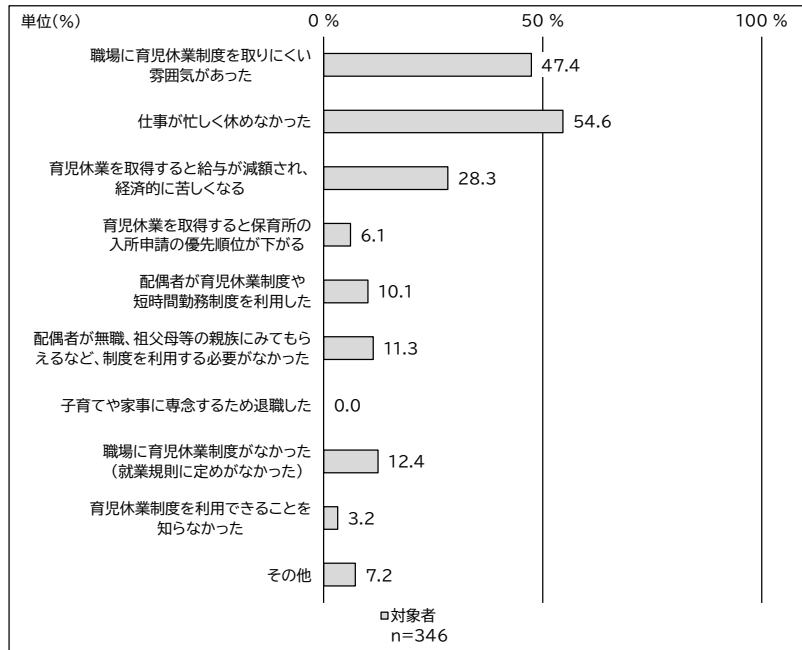
※平均値は小数点以下第1位を四捨五入

【中央値】 数値を昇順や降順に並べた際に中央となる値で、平均値に比べ、極端に大きい値や極端に小さい値など、異常値（外れ値）の影響を受けにくい特徴があります。

【最頻値】 対象の中で最も頻繁に現れる値で、統計の傾向をつかみやすい特徴があります。

6) 父親が育児休業を取得していない理由 [複数回答]

父親が育児休業を取得していない理由は、「仕事が忙しく休めなかった」が54.6%、次いで「職場に育児休業制度を取りにくい雰囲気があった」が47.4%などとなっています。



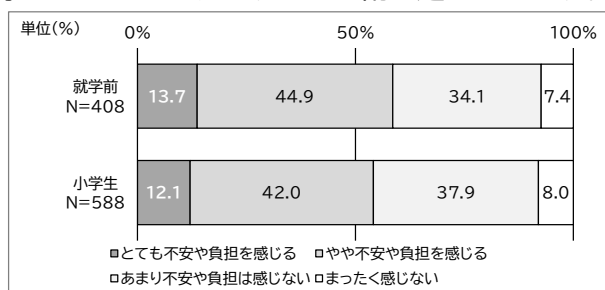
- その他の回答 -

- ・ 自営業や個人事業主のため
- ・ 必要なかった
- ・ 父親の育休について考えなかった、話をしなかった 等

9. 子育てへの不安や地域の子育て環境について

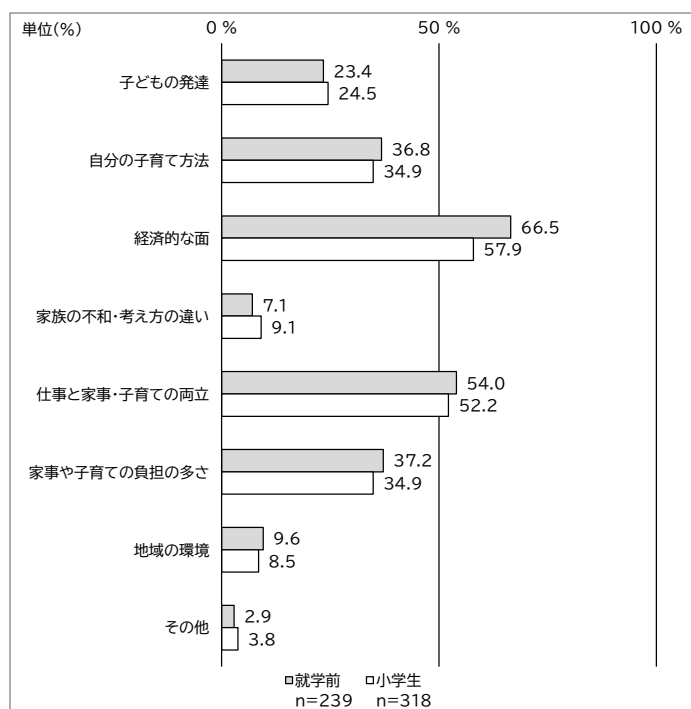
1) 今の生活への不安や負担 [単数回答]

今の生活への不安や負担は、「とても不安や負担を感じる」が就学前児童で13.7%、小学生で12.1%となっており、「とても不安や負担を感じる」と「やや不安や負担を感じる」の合計は、就学前児童が58.6%、小学生が54.1%で、いずれも5割を超えています。



2) 不安や負担の内容 [複数回答 (3つまで)]

前問で「とても不安や負担を感じる」「やや不安や負担を感じる」とした回答者の不安や負担の内容は、就学前児童・小学生とも「経済的な面」が最も高く、次いで「仕事と家事・子育ての両立」となっています。



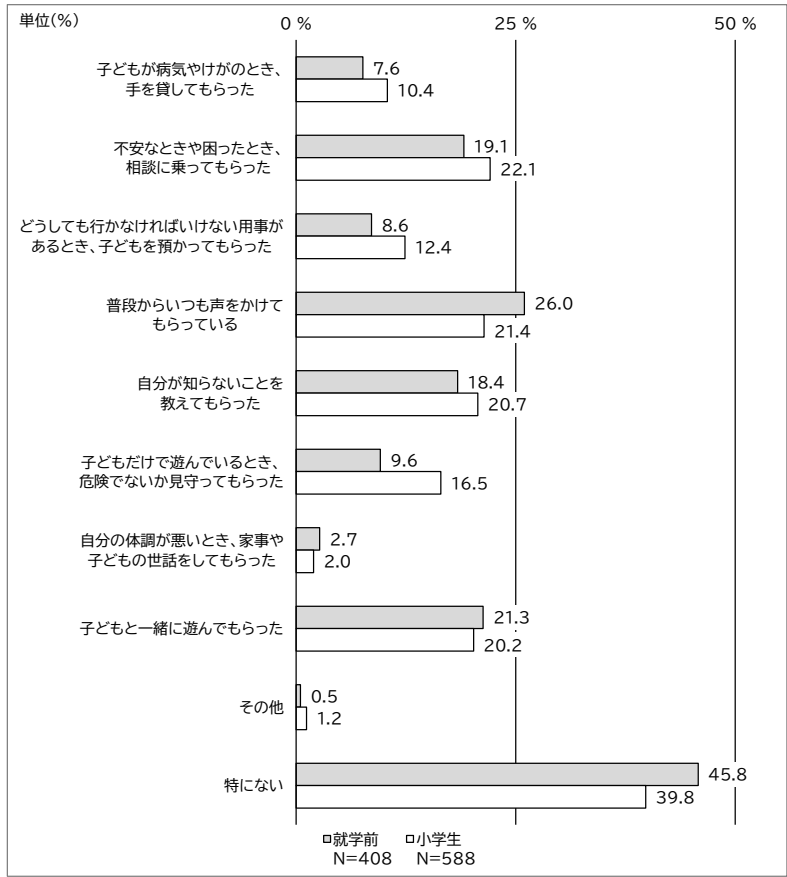
- その他の回答 -

【就学前児童】	【小学生】
<ul style="list-style-type: none"> ・今後どのような世の中になるか、どう導けばよいか ・自分または家族の病気 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの進路や進学について ・自分または家族の病気 等

3) 地域の方等に子育てを手助けしてもらってよかったこと【複数回答(3つまで)】

近所に住んでいる方や地域の方に子育てを手助けしてもらってよかったと思うことは、就学前児童は「普段からいつも声をかけてもらっている」が最も高く、次いで「子どもと一緒に遊んでもらった」となっています。一方、小学生は「不安なときや困ったとき、相談に乗ってもらった」が最も高く、次いで「普段からいつも声をかけてもらっている」となっています。

なお、就学前児童で45.8%、小学生で39.8%は、「特にない」と回答しています。



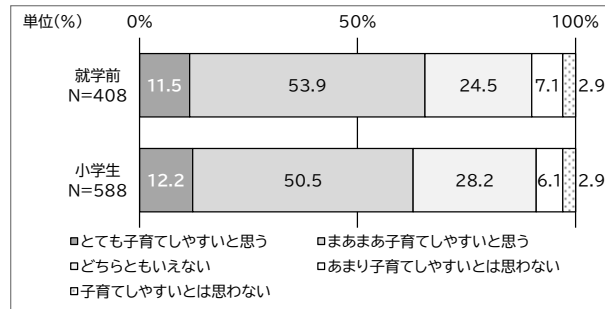
- その他の回答 -

- ・ 登下校時の見守り
- ・ 習い事の送迎 等

4) 子育てしやすい環境か [単数回答]

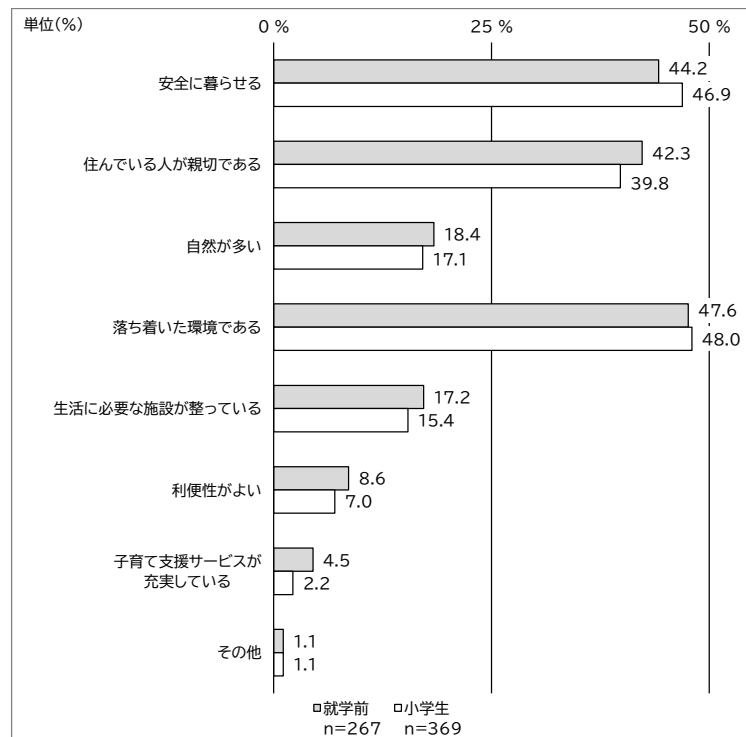
住んでいる地域が子育てのしやすい環境だと感じるかとの問いに対しては、「とても子育てしやすいと思う」が就学前児童で11.5%、小学生で12.2%となっており、「とても子育てしやすいと思う」と「まあまあ子育てしやすいと思う」の合計は、就学前児童が65.4%、小学生が62.7%で、いずれも6割を超えています。

一方「子育てしやすいとは思わない」と「あまり子育てしやすいとは思わない」の合計は、就学前児童10.0%、小学生で9.0%となっています。



5) 子育てしやすいと思う理由 [複数回答 (2つまで)]

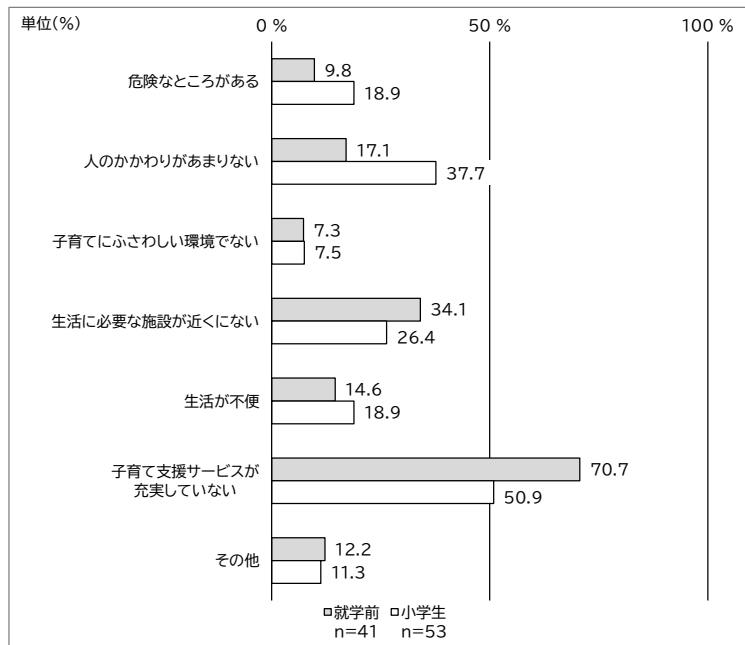
前問で「とても子育てしやすいと思う」「まあまあ子育てしやすいと思う」とした回答者の子育てしやすいと思う理由は、就学前児童・小学生とも「落ち着いた環境である」が最も高く、次いで「安全に暮らせる」となっています。



- その他の回答 -	
【就学前児童】 ・同世代が多く、理解がある ・実家が近い、自分が育った町 等	【小学生】 ・子どもが多く、子ども向けサービスが色々ある ・住み慣れた土地、実家が近所だから 等

6) 子育てしやすいと思わない理由【複数回答(2つまで)】

前々問で「子育てしやすいとは思わない」「あまり子育てしやすいとは思わない」とした回答者の子育てしやすいとは思わない理由は、就学前児童・小学生とも「子育て支援サービスが充実していない」が最も高く、次いで、就学前児童は「生活に必要な施設が近くにない」、小学生は「人のかかわりがあまりない」となっています。

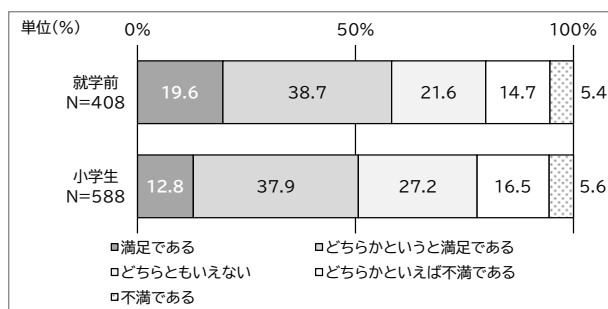


- その他の回答 -	
【就学前児童】	【小学生】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園に入りにくい ・ 夜まで預かってくれるところや、土曜日に夕方から夜まで預かってくれるところがない ・ 病児保育施設が遠い 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 療育施設が少ない ・ 医療費が高い ・ 保育園の保育時間と小学校の学童の時間にずれがあり、学童の平日のお迎えの時間に間に合わない 等

7) 公園や遊び場について【単数回答】

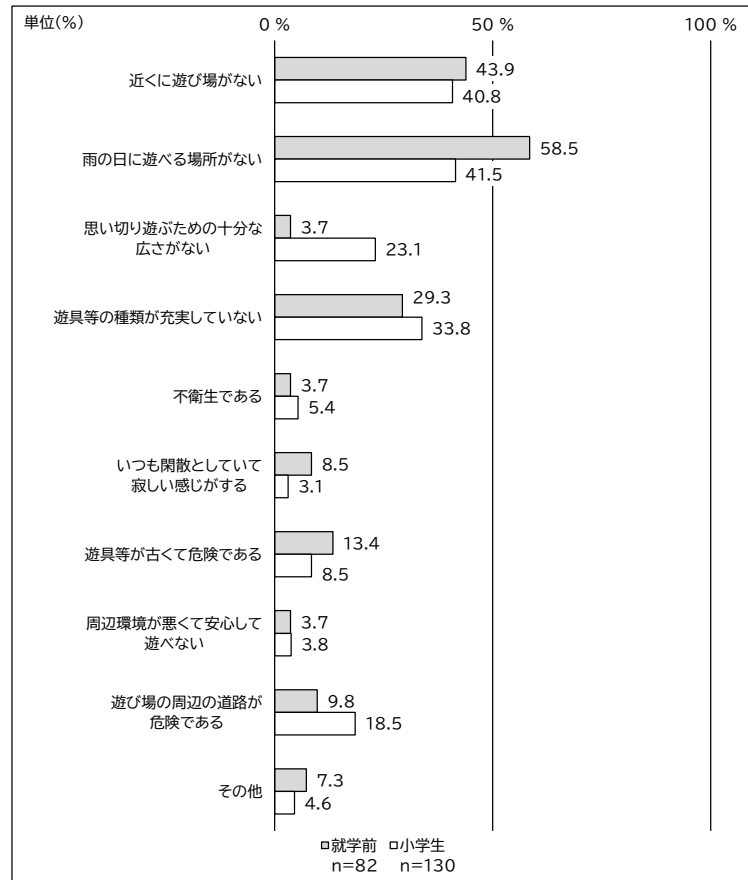
住んでいる地域の公園や子どもの遊び場については、「満足である」が就学前児童で19.6%、小学生で12.8%となっており、「満足である」と「どちらかという満足である」の合計は、就学前児童が58.3%、小学生が50.7%で、いずれも5割を超えています。

一方、「不満である」と「どちらかといえば不満である」の合計は、就学前児童で20.1%、小学生で22.1%となっており、いずれも2割を超えています。



8) 不満と感ずる理由 [複数回答(2つまで)]

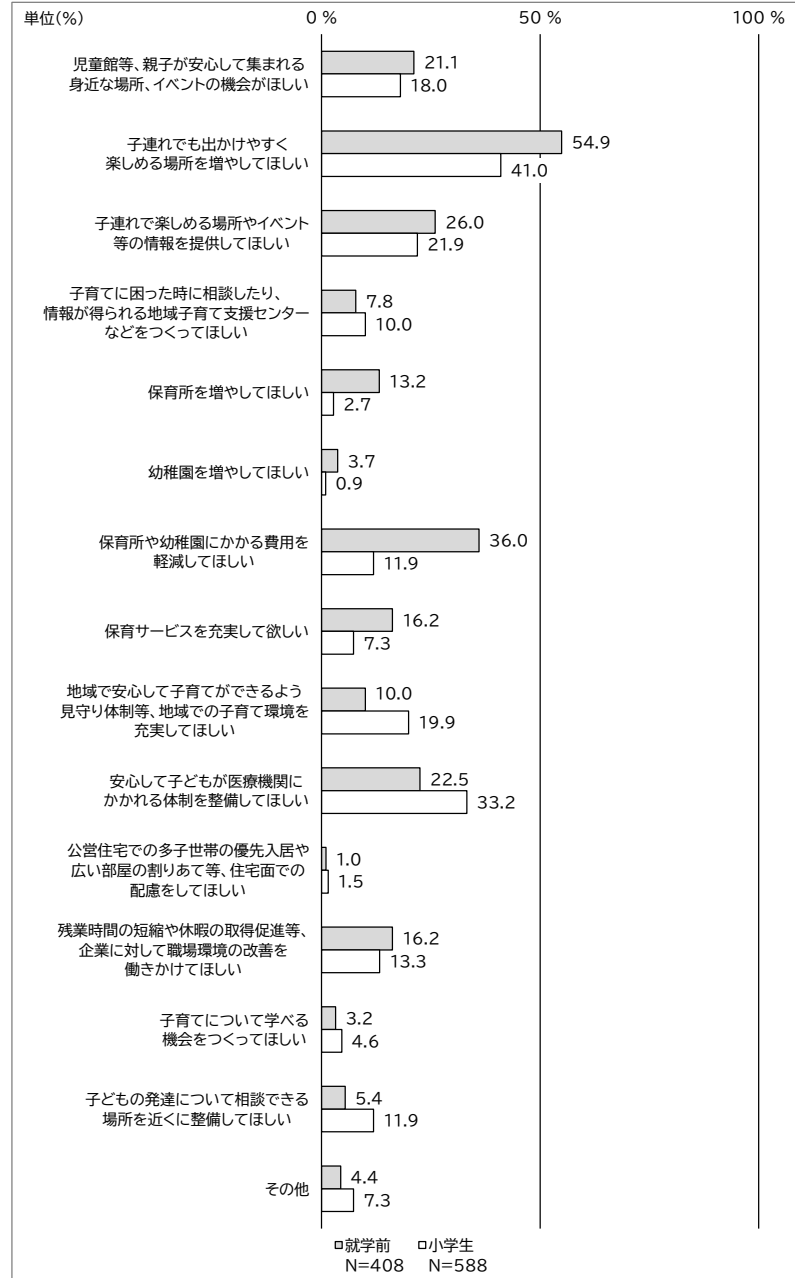
前問で「不満である」「どちらかといえば不満である」とした回答者の不満と感ずる理由は、就学前児童・小学生とも「雨の日に遊べる場所がない」が最も高く、次いで「近くに遊び場がない」となっています。



- その他の回答 -	
【就学前児童】	【小学生】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊具の整備をしてほしい ・ 未就学児の遊び場を作ってほしい ・ 信号や道路の安全性について 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に見守ってもらえる安心感がない ・ 大人たちが子どもに対して寛容でないため、子育てしにくい ・ 自転車で行く場合の信号や道路の安全性について 等

9) 本町の子育て支援について特に期待すること【複数回答(3つまで)】

本町の子育て支援について特に期待することは、就学前児童・小学生とも「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」が最も高く、次いで、就学前児童は「保育所や幼稚園にかかる費用を軽減してほしい」、小学生は「安心して子どもが医療機関にかかる体制を整備してほしい」となっています。



- その他の回答 -
【就学前児童】

- ・ 経済的な支援や負担の軽減
- ・ 放課後子ども育成教室（学童）について
- ・ 保育時間について
- ・ 施設の老朽化対応について 等

- その他の回答 -
【小学生】

- ・ 経済的な支援や負担の軽減
- ・ 放課後子ども育成教室（学童）について
- ・ 公園について
- ・ 信号や道路の安全面の改善
- ・ 放課後に子どもだけで利用できるスペースの提供 等